

だいにぎ議会だより



一般会計補正予算	(2)
第4回定例会で審議された議案	(3)
一般質問（8人が登壇し、町政を問う）	(4)～(11)
議会報告会・常任委員会報告	(12)

No.
180
平成27年
1月14日

平成26年第4回定例会

全議案原案可決

一般会計

7121万6千円の増額

一般会計補正予算（第4号及び第5号）の主な歳入及び歳出は、別表のとおりです。補正後の予算総額は、歳入歳出それぞれ117億6234万5千円となりました。歳入歳出予算のほか、継続費の設定1件、債務負

担行為の追加13件、地方債の追加3件及び変更2件がありました。また、国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）では、687万9千円の増の補正がありました。

第4回臨時会

平成26年12月16日に第4回臨時会が開催されました。

◇審議された議案

○平成26年度大子町一般会計補正予算（第6号）

原案可決（全員賛成）

議会を
傍聴しま
しょう

議会傍聴は町政を知る良い機会です。お気軽にお出かけください。

3月定例会開催予定

▽4日（水）開 会

▽5日（木）～8日（日）
自宅審議

▽9日（月）一般質問

▽10日（火）一般質問

▽11日（水）自宅審議

▽12日（木）一般質問

▽13日（金）逐条審議

▽14日（土）～15日（日）
自宅審議

▽16日（月）逐条審議

閉 会

※詳細は議会事務局にお問い合わせください。

一般会計補正予算の主なもの

歳 入	補 正 額
県支出金	1,860万 7 千円
寄附金	1,430万円
繰入金	8 億2,420万円
繰越金	1,829万 5 千円
町 債	△ 8 億1,040万円

歳 出	補 正 額
衆議院議員総選挙費	1,648万 4 千円
児童生徒読書推進事業費	1,400万円
土木施設単独災害復旧事業費	307万 2 千円
観光物産館多目的広場整備工事設計業務委託料	293万 4 千円
河川単独災害復旧事業費	275万 6 千円
空き家調査業務委託料	199万 8 千円

平成26年第4回定例会が11月19日から27日までの9日間の会期で開かれました。条例の改正、平成26年度一般会計・特別会計補正予算など町長から提出された議案15件を審議し、原案どおり可決しました。また、議員提出議案の「大子町議会基本条例」が全会一致で可決されました。

一般質問では8人が登壇し、町政に対しての質問、答弁が展開されました。

提出議案等と審議結果

議案番号	議 案 名	結 果
議案第79号	大子広域公園オートキャンプ場の管理に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第80号	光ファイバ整備事業委託業務請負契約の締結について	原案可決
議案第81号	町道路線の認定について	原案可決
議案第82号	町道路線の認定について	原案可決
議案第83号	町道路線の廃止について	原案可決
議案第85号	平成26年度大子町国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）	原案可決
議案第86号	平成26年度大子町一般会計補正予算（第4号）	原案可決
議案第87号	大子町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第88号	平成26年度大子町一般会計補正予算（第5号）	原案可決
議案第89号	平成26年度大子町国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）	原案可決
議案第90号	平成26年度大子町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）	原案可決
議案第91号	平成26年度大子町介護保険特別会計補正予算（第2号）	原案可決
議案第92号	平成26年度大子町介護サービス事業特別会計補正予算（第2号）	原案可決
議案第93号	平成26年度大子町浄化槽整備事業特別会計補正予算（第2号）	原案可決
議案第94号	平成26年度大子町水道事業会計補正予算（第2号）	原案可決
議員提出議案 第5号	大子町議会基本条例	原案可決

※議案第84号は、平成26年度大子町一般会計補正予算（第4号）として提案する予定でしたが、衆議院議員総選挙の執行に伴う選挙費追加のため議案を撤回し、改めて議案第86号として提出されました。

議案の 賛否状況

採決に当たり、意見が分かれた議案の賛否状況をお知らせします。

平成26年第4回定例会
全議案とも全会一致で可決されました。

平成27年 第1回臨時会

平成27年1月22日に第1回臨時会が開催されました。

◇審議された議案

○大子町国民健康保険条例の一部を改正する条例の専決処分の承認を
求めることについて

原案承認（全員賛成）

○大子町監査委員の選任について

原案同意（全員賛成）

○平成26年度大子町一般会計補正予算（第7号）
原案可決（全員賛成）
○茨城県後期高齢者医療
広域連合議会議員補欠
選挙について
当選人 鈴木陸郎

監査委員に

菊池富也氏

大子町監査委員の鈴木俊郎氏が、平成26年12月14日に急逝されたため、後任として菊池富也氏を選任することに同意しました。
任期は、平成27年1月22日から4年です。



一般質問

地元（酒）で乾杯を推進しては

〔答〕乾杯条例制定は活性化になる



藤田友晴 議員

しょう、「お酒は地酒で乾杯しましょう」を周知されたい。

答 町長

キャッチコピーを行政が

つくるのはいかなものかと考えている。飲食店組合等が中心となって活動することが適当だと考える。

エネルギーや農産物の地産地消を

問 現在、多くの自治体が

地酒で乾杯を推進する条例を制定し、地酒の消費拡大や地産地消の推進を図り、地域活性化に積極的に取り組んでいる。当町も地酒や地ビールで、地元で乾杯を推進することを考えられないか。

答 町長

乾杯条例は地域活性化にもつながるが、大子町の特産品全体に範囲を広げ、消費拡大の取組みや条例制定の検討を進める。

問 「お酒は地元で飲みま

問 エネルギーの地産地消

は地域に必要なエネルギーを地域の資源によつて賄うことで、富が地域外

答 町長

当町においては里山資本主義的な考え方は非常に

に流出せずに地域内に残り、地域内で循環することで経済効果が相乗的に増大する。地域の宝、自然エネルギーを再発見し、これをうまく活用することで地域が本当に豊かになると言われている。当町も豊かな木質資源があり、それらを有効に活用すべきでは。



完成間近の「宮の郷木質バイオマス発電所」

マッチしている。エネルギーや農産物の地産地消を進めるためにも、町民へ地元の良い生活を推進したい。

問 世界情勢に大きく左右され、高騰する可能性のある化石燃料から計画的な木材資源の利用と木質燃料の安定供給により、地域内に

台湾輸出の八溝ヒノキ、農産物の可能性は

問 昨年より八溝ヒノキが台湾へ輸出されている。単に輸出ではなく、当町が中心の製材工場で加工し、県内の工務店が台湾で住宅の建築も行っている。川上から川下までの一貫した取組みが評価されているが、農産物も台湾へ輸出できないものか。現在、日本食ブームが世界に広がり各国で日本の食材が注目されている。特に、アジア向けの輸出は順調に推移し、高級食材として富裕層を中心に人

新たな産業が生まれると思うが。

答 町長

現在、木質バイオマスエネルギーを活用したポイラー整備について、担当課で先進地に赴いて調査検討をしている段階である。今後、どのようなバイオマスエネルギーの活用ができるか検討を進めていきたい。

台湾輸出の八溝ヒノキ、農産物の可能性は

問 昨年より八溝ヒノキが台湾へ輸出されている。単に輸出ではなく、当町が中心の製材工場で加工し、県内の工務店が台湾で住宅の建築も行っている。川上から川下までの一貫した取組みが評価されているが、農産物も台湾へ輸出できないものか。現在、日本食ブームが世界に広がり各国で日本の食材が注目されている。特に、アジア向けの輸出は順調に推移し、高級食材として富裕層を中心に人

気が高まっている。メイドイン大子として取り組めないか。

答 町長

当町の基幹産業である農業の振興は最重要施策の一つであり、販路の確保が大切である。また、日本貿易振興機構ジェットロとの協定も結んでおり、輸出の基盤整備や研修等の支援を受けることができる。しかし、輸出にはさまざまな障害もあり、戦略的かつ慎重に検討していきたい。

一般質問

各地域に凍結防止剤の配置を

答 本年度から各コミセンに常備する



中郡一彦 議員

コミユニティセンターの協力を得て、凍結防止剤を15袋ずつ常備することとした。凍結防止剤は湿気を嫌うが、乾いた場所に密封し

て保管すれば次年度も利用できるもので、無駄のないように対応していただくようお願いしたい。

行政と町民一体で

「おもてなし」の町を

問 本年第1回定例会で質問した件の確認だが、山間部から役場まで凍結防止剤を取りに来るのは大変であり、積雪時や凍結時などは危険性を伴う。利用者の利便性の面からも冬期間だけ各地域のコミユニティセンターなどに配置しておけないか。また、今年度から実施できるのか。

答 町長

質問のあった件について建設課と協議の結果、利用者の皆さんの危険性や利便性を考慮し、今年度から各

問 本町への観光客数も少しずつではあるが戻りつつある。また、今後茨城国体や東京オリンピックの開催など観光客の増加が予想される。特に、今年は外国からの観光客が増加していると聞く。本町の観光施設に外国語のパンフレット等を常備すべきではないか。また、案内板の整備等も「おもてなし」の一環だと思

答 町長

が。大子町を訪れる観光客が

増加しているのは事実である。また、外国人観光客向けの整備の必要性を感じている。今後、計画的に整備を進めパンフレットや案内板の整備を進める考えだ。外国人観光客にサービスの向上を図り大子町の魅力を発信していきたい。

問 大子町を訪れる観光客

に対する「おもてなし」の意識はまだまだ浸透しているとは思えない。先ごろには県議会においても「おもてなし」に関する条例

が成立し、茨城県民挙げて観光客への「おもてなし」を推進することとなった。本町は茨城を代表する観光地であり、先頭に立って「おもてなし」の推進を図るべきだと思

答 町長

まずは観光事業者及び団体、そして町民一人一人が観光客に対し日ごろから良質な心のこもったサービスをして、大子町の魅力を発信することが大事だと思う。

問 先日開催された大子町、常陸太田市、常陸大宮市の3首長でのシンポジウムの中で、中学生を対象にしたアンケート結果では、大子町の中学生は他の2市の中学生と比較して、将来のまちづくりや郷土愛などに高い関心を持っていることがわかった。本町の将来を担う子どもたちに意見等

答 教育長 さまざまな子どもたちの提言や未来への思いを語ることは、大変大事なことだと思

う。今後、子ども議会等の開催を計画している。東京オリンピックや茨城国体を見据えた郷土の魅力やおもてなしなど活発な話し合いを期待している。



大勢の観光客が訪れた永源寺の「もみぢ」

一般質問

大子町地域公共交通の改善策は

答町内巡回システムも考え方の一つ



野内健一 議員

用がある。

問 この843名という利用者数は当初の目標に達しているか。

答 まちづくり課長

当初予算では1100万円を見込んでいたが、現在400万円強の支出となっている。さらなる周知を図って、利用者を増やしていきたい。

問 デマンド交通システム(乗合いタクシー制度)は、いったんは行政がその導入の方向に傾いたが、大子町地域公共交通会議では保留とされ、現時点ではそのかわりに大子町タクシー利用助成事業として展開されている。現在の利用者数は。

答 町長

平成26年4月から開始された大子町タクシー利用助成事業の利用者は、843名でその方に利用助成券を交付している。平成26年10月末現在で5216件の利

答 町長

現在、この助成事業でカバーし切れていない地域があることは承知している。また、今後の検討課題でもあるという認識もある。

問 早急にデマンド交通システムが導入できないのであれば、何か改善策はあるか。

答 町長

あくまでも今後の考え方の一つとして、小型のマイクロボス等の自動車を利用した町内巡回システムができればと思っている。公共交通会議にも提案していく。

マイナンバー制度の準備と利用方法は

問 マイナンバー制度が来

年の10月にスタートする。大子町としての今後のスケジュールは。

答 町長

平成27年10月に全町民に対しマイナンバーを付番し、マイナンバーを記載した通知カードを送付する。その後、役場町民課に申請していただき、平成28年1月以降に個人番号カードが交付され利用が開始する。

問 マイナンバーカードとは健康保険、年金等の社会保障面のデータや国税、地方税のデータについて、同一人であることの確認を行うための基盤になるものと聞いているが、行政としても新たなソフトの構築や、事務事業の変更などさまざまな準備が必要と思われるが。

答 まちづくり

課長

この制度への対応には、町行政の事務が大きく関わっている。4月からアドバイザーとして専門家をお願いしている。また、庁内の関係部署で今後、検討を実施していく予定。町民の皆様への広報については、順次その説明を実施していく予定であるが、国からの指示もまだ完全ではないので、今後明確になり次第説明する。



みどり号の停留所(前冥賀地内)

一般質問

山間地の農業の未来像は

【答】施策を組み合わせて維持向上を図る



金澤眞人 議員

価格維持を図りつつ、飼料米への転換も進める。

問 農地への太陽光発電施設の設置について対応は。

答 町長

申請及び転用許可が数件あるが、導入されて間もない事業であり設置に当たり十分な検討が必要である。

問 木材資源の活用に対する町の考えは。

答 間伐材の有効利用を図る木質バイオマス事業は意義あるものと考えます。焼却灰の残留放射能など課題も多いが今後さらに調査検討していきたい。

問 農地集積の状況は。

答 町長

現在貸し出しの申請3名、担い手の申請6件ある。高齡化などによる耕作放棄地対策は。

答 町長

所有者の責任で管理するのが原則であるが、町の遊休農地景観整備事業などもあり、農林課へ相談してほしい。

問 米価下落に対し飼料米やWCSの推奨の考えは。

答 町長

主食用米のブランド化で

FMだいの難聴地域の状況は

問 現在受信困難な世帯はどのくらいあるのか。

答 町長

戸別訪問調査で協力いただいた世帯の91%が聞き取れているとのことである。

問 個別アンテナを取り付けた件数及び費用は。

答 町長

これまでの調査では325件、1985万円の屋外アンテナ設置が必要であり

206件設置完了した。

問 今後個別アンテナが必要となる予想は。

答 町長

全体で400件分、2422万円を見込んでいます。

問 聞こえる地区、聞こえない地区があり、情報の格差になっているが。

答 町長

聞こえない、聞き取りにくい世帯に対しては再調査

し、T型アンテナや屋外アンテナ設置を行い全世帯が受信できるよう整備する。

学校跡地の活用と太陽光発電の状況は

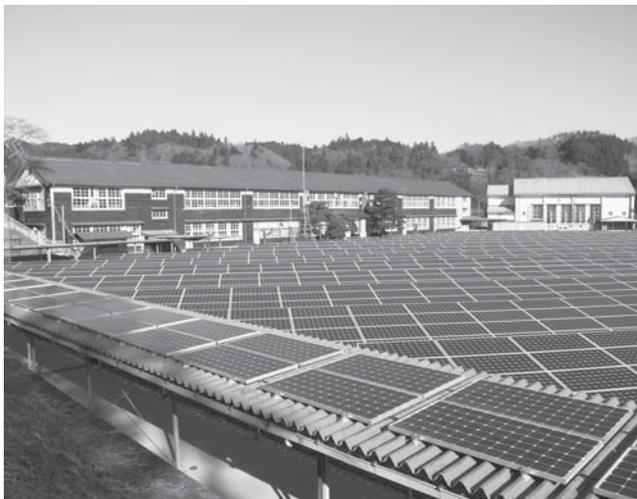
問 黒沢中学校跡地の太陽光発電の状況及び事業者との契約内容は。

答 町長

総出力約1000kW、パネル3400枚となっている。契約内容は、プールは防火水槽として整備し、非常用の食料と飲料水は会社が備蓄し必要なときは提供する。校舎の一部は町で利用可能ということで間違った。

答 まちづくり課長

当初、パネル3000枚の申



伝統ある校舎と新しい技術の共存なるか

請だったが軽微変更可能で3400枚になった。
問 校舎が登録文化財になるが今後の対応は。

答 町長

事業者は文化財であることを理解しており、一般公開に協力いただける。12月からは土、日、祝日も見学できる予定。

答 まちづくり課長

校舎内の見学は今の所できません。来年3月まではその方針を進めたい。

一般質問

大子ライトはイメージどおりか

答 期間の検討や内容の充実を図る



藤田 稔 議員

問 イルミネーション事業への町民参加は考えられなかったか。

答 町長

湯の里公園へのイルミネーション装飾の参加者を募集しているところである。

問 大子ライトでの袋田の滝観瀑施設への入込状況は。また、イメージどおりの事業となっているか。

答 町長

当初から9日間で、約5200人である。町内イルミネーションは、資材レンタル料に費用が掛かるので、期間の検討、内容の充実を図りたい。

問 イルミネーションの予算は。

答 観光工課長

町内においては、1074万600円となっている。



ライトアップされた常陸大子駅前の蒸気機関車

問 袋田の滝において観光案内所を設置して町内全域への誘客を図るべきでは。

答 町長

当面は、設置場所や職員等、問題等も生じるので臨時観光案内所で町内全域への誘客を図っていききたい。

東京理科大学との連携事業の推進を

問 東京理科大学大子研修センター誘致による立地効果は。また、施設等の町民

の利用状況はどうか。

答 町長

平成21年以来今年9月ま

での利用者は、6501名である。管理の受託金は、2200万円弱である。町飲食店関係は、438万円となっている。施設等は、よさこい、弓道団体、スポーツ少年団、フィルムコミッション事業等で利用している。

問 10年間無償貸与を考えると、町側から積極的に理科大側との連携事業を推進していくべきではないか。

答 まちづくり課長

理科大側の情報を収集し積極的に働きかけていく。避難所として東京理科大側と協議はされたか。

答 町長

災害時における臨時避難所の利用に関する覚書を平成25年4月18日付で交わしている。

問 貸付財産の返還等についてはどう考えているか。

答 町長

これから双方で協議して、詰めていきたい。

問 大子町中心市街地活性化基本構想において、町民

の意見を反映した概算事業費や維持管理費等はいつ頃提示する考えか。

答 町長

拠点施設基本計画策定及び基本設計の中で積算するため今年度末以降となる予定である。

問 大子町役場庁舎建て替え等についての考えは。

答 町長

本庁舎が築後53年が経過している。東日本大震災後の応急危険度判定士の調査では応急に事故防止の対応は必要ないと報告を受けた。膨大な財政負担を伴うため新庁舎建設基金の設置を進めている。

問 今までに、庁舎建設基金の設立があったのでは。

答 財政課長

平成8年3月の議会でも可決され平成8年度に5千万円ほど積み立てた。その後財政運営が厳しい等の理由で平成12年3月の定例会において廃止条例が提案され議決された経緯がある。

一般質問

コミュニティFMの対策は

【答】難聴世帯の早期解消を進める



佐藤正弘 議員

はT型アンテナ、325件は屋外アンテナの交付決定を行い発注している。

問 委託調査終了後、8千世帯のうち約5千世帯の個別の訪問や聞き取り調査を行っているかと答弁しているが、具体的な数字なのか。

答 総務課長
10月20日時点で、訪問した世帯は5019世帯、不在世帯を除くと3759世帯となる。

米価の下落、イノシシ対策は

問 今年の米価は今までになく暴落し、生産コストが米価に届かず農家が米の生産をやめざるを得ない状況である。現状が続けば耕作放棄地の増加を招き、自然荒廃を招く。町が把握している現状と対策は。

答 町長

帯となる。
問 いつまでに全世帯が正常な受信ができるようになるのか。

答 町長
臨時職員2名で、受信状況訪問調査を行っている。予算内で調査員2名の追加を検討し、調査の結果を踏まえ引き続き難聴世帯等の早期解消を進めていく。

本町には556haの水田がある。米価の指標となるJA米の仮渡し金額は玄米60kg当たり9100円と昨年より3200円ほど安く米作農家の切実な問題となっている。主食用米から飼料用米等への転換を含めて推進していきたい。

問 9月議会でもイノシシ等の被害や対策を質問しているが、その後の鳥獣被害の現状と対策は。

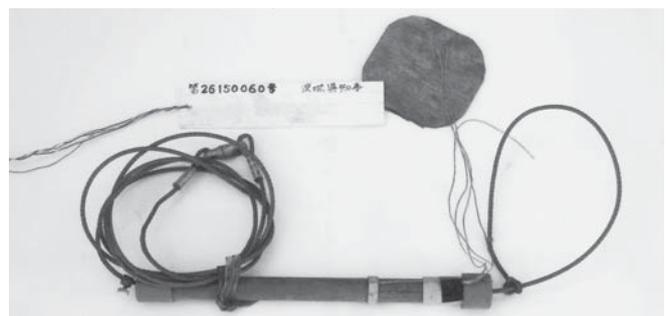
答 町長
農作物被害防護柵設置補助事業の申請が、11月10日までに304件、471万3千円と当初予算の300万円を大幅に上回り、今議会に補正予算の増額を要請した。農家の方々を対象とした、わな猟の免許取得の補助の実施及び試験の予備講習会を大子町で開催する予定である。

国登録有形文化財としての

旧黒沢中学校の活用は

問 旧黒沢中学校本館、技術、音楽教室等が国登録有形文化財（建築物）に登録された。現状をみると何のための登録か疑問を抱く。今後の活用方法をどのように考えているか。

答 町長
建物の老朽化が懸念されたが、太陽光事業者に賃貸



イノシシ捕獲のくくり罠と設置標識

したことよって清掃、メンテナンスが行われ、きれいな状態が保たれている。災害時、緊急時はいつでも開放できる体制である。登録有形文化財として、平日の一般開放は事業者従業員、休日については12月から地元住民の協力を得て対応していく。

問 コミュニティFMが開局されて来月で1年を迎えるが、いまだに正常に受信できない世帯がある。本来必要な地域が後回しにされている。現在、どのような対策が行なわれているか。

答 町長
コミュニティFM放送受信相談センターを設置し、弱電地域調査業務を実施してきた。委託調査業務では、あらかじめ受信エリア外とされる世帯と期限までに調査申し込みがあった世帯453件を調査し、128件

一般質問

行財政改革を推進すべきでは

【答】対応指導、検討、精査する



岡田敏克 議員

の削減に努めていきたい」と述べている。どのような時代でも行財政改革は必要である。町民の血税である。

答 町長

町民サービスを低下させることなく、時間外勤務等の削減を図るため、各課の事務事業の見直しを行うとともに、より一層各所属の業務量の的確な把握と業務量に応じた適正な人員配置に努め、時間外勤務等の命令、運用についても対応指導していきたい。

問 これから実施される職員

の人事評価制度についても時間外も対象加味すべきである。現在、行政職184名、技能・労務職31名、消防職44名、計259名の職員がいる。責任を負わないことになっている臨時は11名、嘱託は59名を数える

が、町民が正職員と区別がつかない。身分証のひもで色分けしてはどうか。

答 町長

ストラップの色で対応してはという提案だが、それも踏まえて検討したい。

問 臨時、嘱託職員として

1つの課に4～5年もいる者もいる。どうなっているのか。

答 町長

同じ課に継続しての雇用はしていないと認識している。精査したい。

子宮頸がんワクチン接種後にアンケートを

問 子宮頸がんは20～30

代の女性に発生するがんの内第1位を占め、年

間1万人が発症し約3千人が死亡している病気である。町では平成22年度から中学1年生女子を対象に子宮頸がん予防ワクチン接種費用全額助成を実施している。しかし、平成25年4月から副作用が相次ぎ、2か月後、

国は積極的に勧めないと転じた。県内では

牛久市の中学生等6名が重症化した。町ではこれまでに350人以上が接種したが、何の問題もなかったのか。

答 町長

町における副作用として事業を開始した平成22年度において接種後、頭痛、腕が上がらない、気分が悪くなった等の症状があったと一部の中学校から情報を得ている。

問 子宮頸がんワクチン接



子宮頸がん予防ワクチン接種

種については、今後大きな社会問題へと発展していくだろうと思う。今後は、犠牲者を出さないためにも接種後のアンケートを町独自に考えるところか、県に働きかけることを提案する。

答 町長

今後、医師会との協議を持ちたい。

その他の質問

○大子ふるさと応援サポーターについて

一般質問

奨学金制度の検討状況と概要は

答 帰郷と定住を目指す内容で構想



大森勝夫 議員

問 青少年の学業支援と卒業後の若者帰郷並びに定住を実現するため、町独自の奨学金制度の導入が検討されている。現時点で想定している制度の概要は。

答 町長

町民の子弟が高校、大学へ進学するための資金を奨学金として貸与し、卒業後に町内で家業の継承、就職、起業のいずれかを行い、かつ、町内に定住することで、定住期間は奨学金返済を免除するという制度を検討している。大子町の若者が就

学により習得した能力や技術を町内に定住して発揮してもらい、町の活性化を図ることを目的としている。

問 地元の高校支援を行っている自治体もある。こうした制度の採用枠を地元の高校に優遇して割り当てれば、大学進学への学業の励みになり、生徒数の確保にもつながると思うが。

答 町長

制度活用希望者に公平性を持たせることが大切と考える。地元高校支援の観点も踏まえて検討したい。

和紙の原料産地として

知名度の向上策を

問 大子町は和紙原料となるコウゾの良質な生産地である。手すき和紙の技術がユネスコ無形文化遺産に登

問 奨学金の財源に、ふるさと納税など一般支援者からの寄付を加えることで、受給学生がたくさんの支援者に支えられているという励みと責任を感じることができ、制度の主旨を理解してもらえ効果があると思われる。検討できないか。

答 町長

ふるさと大子応援寄付金は毎年約100万円強で推移している。寄付金制度の充実を推進し、奨学金制度の財源となる基金の設立なども検討していきたい。

録され、和紙に対する注目度が世界的に高まること予想される。和紙をキーワードに活性化の手法を策定す

るべきと思うが、現況調査等はしているか。

答 町長

最近の調査では、栽培農家数85件、栽培面積8ha、出荷量4t、福井県の越前和紙、岐阜県的美濃和紙などに使用されている。町内に手すき和紙を生産する施設や職人はおらず、



大子は良質な和紙原料コウゾの産地です

原材料の栽培と出荷のみとなっている。支援策として、生産のみの支援は難しいので、製品である和紙とセットで支援策を検討したい。

問 大子産のコウゾでありながら、業界では那須コウゾの名称で取り扱われているという。こうした原料名称に対する改善、若しくは産地の認知度向上を図るべきではないか。また、生産者不足や和紙職人確保の課題は、地域おこし協力隊の制度等を活用して公募してはどうか。原料栽培から和紙製作まで一貫して生産可

答 町長

コウゾの生産は農閑期の副業的な面があった。また、大子産コウゾを使用する和紙産地からは、生産維持の要望があるという。和紙という文化的見地から支援策を考えていきたい。

その他の質問

○FMだいたい開局1年を迎えての検証について

議会報告会

議会報告会を平成26年11月5日、10日の両日、2班に分かれて未実施地区の太子、依上、宮川、上・下小



川地区の4会場で行いました。

報告会では、議会の概要説明、常任委員会活動報告等を行い、参加者からの質疑、町政に対する要望等を伺いました。

平成24年8月28日に初めて開催した議会報告会は、今回の報告会で全地区を終了しましたが、議会活動の状況報告及び町民の皆様の意見を聴く機会の場として、今後も開催していきたいと思えます。

常任委員会報告

▽総務委員会

1月14日



太陽光発電施設の現況視察（袋田太陽光発電所Ⅱ旧スパ袋田ゴルフクラブ）

▽文教厚生委員会

12月1日

放課後子ども教室（上小川小、袋田小）及び放課後児童クラブ（だいが放課後児童クラブ）の現状と課題の把握のための視察



FM放送のお知らせ

町議会定例会の一般質問の様子をFMだいで聴くことができます。生放送のほか録音放送もしています

ので、是非お聴きください。放送日、時間等はFM放送等でお知らせします。

詳しくは、議会事務局にお問い合わせください。

インターネットで映像配信

町議会では、3月定例会からインターネットによる議会中継を配信します。

定例会及び臨時会のすべてを生中継するとともに、太子町ホームページで録画配信（会議日からおおむね3日後）します。

太子町議会の様子を是非、映像でご覧ください。詳しくは、議会事務局にお問い合わせください。

太子町議会広報委員会

- 委員長 藤田 稔
- 副委員長 金澤 真人
- 委員 菊池 靖一
- 委員 大森 勝夫
- 委員 藤田 友晴
- 委員 鈴木 陸郎
- 委員 齋藤 忠一

あとがき

今年の干支は「ひつじ」。ヒツジはウシ目ウシ科ヤギ亜科の一種。同じヤギ亜科に属するヤギと違い、草だけを食べるようです（ヤギは木の芽や皮も食べる）。我が町の遊休農地対策として「ひつじさん」に頑張ってもらえないかと考えたくなります。

また、群れをなすヒツジは、家族の安泰を示しいつまでも平和に暮らすことを意味していると言われ、穏やかで人情に厚いとも言われています。ただし、その優しい性格から頼みごとが断れない場合もあり注意…。今年も1年間議会一丸となり活動します。

（藤田友晴）